「もどす」の意味分析

藤　森　秀　美

要　旨

本稿は、「もどす」の意味を包括的に記述し、日本語学習者の学びに資することを目的としたものである。「もどす」は日常会話でよく用いられ、初級テキストでも比較的早い段階で扱われているが、現行の辞書の記述では、文を産出する際の情報が必ずしも十分ではない。そこで、多義語分析を行った。具体的には、コーパスで広く用例を集め、分析し、別義を認定後、例文とともに示した。分析の結果、「もどす」は基本義から、さまざまな意味が派生していることがわかった。本稿で明らかとなった意味は11である。その意味間の関連（多義構造）を図で示した。意味派生のプロセスにかかわるのは、比喩の概念であるメタファーである。さらに、「もどす」を使った文を産出する際に必要な情報である格成分と余剰成分を示し、学習者の学習を促した。

キーワード

多義語、多義構造、メタファー、メトニミー、シネクドキー

1．はじめに

「もどす」は日常生活でよく用いられ、日本語の初級テキストにも多く用いられる動詞である。しかし、さまざまな意味を持つ、多義語（注１）であるため、学習者にとっては学びやすい語とは言えない。学習者が文を産出する場合、辞書の意味記述を参考にすると考えられるが、現行の辞書の記述ではやや不十分と言わざるをえない。そこで、本稿では、「もどす」の意味を明らかにすべく、コーパスで収集した例文を分析し、「もどす」の意味の記述を行い、例文とともに示した。さらに、比喩の概念を用い、別義間の関係を明らかにした。また、各別義ごとに「もどす」を含む文の要素である格成分と余剰成分を示し、学習者への便宜を図った。

本稿では、多義語分析の４つの課題（注２）のうち、「何らかの程度の自立性を有する複数の意味（多義的別義）の認定の認定」、「複数の意味の相互関係の明示」を行った。

２．辞書類の記述

本節では、一般辞書、学習者向け辞書、それぞれの記述を検討する。

２．１　辞書類

まず、一般辞書として『明鏡国語辞典　第三版』の意味記述を検討する。「もどす」の意味としては、５つの語義が挙げられている。①もとあった場所に返す。②もとの状態に返す。特に、乾燥食品をもとの柔らかい状態にする。③逆の方向へ動かす。④飲食したものを吐く。嘔吐する。⑤下がっていた株価が回復する。

次に、学習者向けの辞書として『日本語基本動詞用法辞典』の意味記述を確認する。これには、語義として５つ挙げられている。①あるものをもとの場所に返す。②逆の方向に動かす，または，あと戻りさせる。③ある物事をもとの状態にする。④乾燥した物や，冷凍にしたものを水などにつけて柔らかくする。⑤一度食べたものを吐き出す。

上記の辞書では、語義間の相互関係が明示されていないので、学習者が「もどす」の意味の全体像をつかみにくい。また、どちらも語義の記述に使われている「状態」の意味が広い。『明鏡国語辞典　第三版』では、「②もとの状態に返す。」の例文として、「話をもとに戻す」、「計画を白紙に戻す」、「水に浸してワカメを戻す」が挙げられている。また、『日本語基本動詞用法辞典』では、「恵子は散らかした部屋を元通りの状態に戻した」、「汚れた海をもとに戻す」、「委員会は 議論を本筋に戻した」、「話を前に戻す」という例文が挙げられている。例文の中の「話・計画・ワカメ・散らかした部屋・汚れた海・議論・話」を「状態」とくくってしまうと、学習者にとっては理解が難しいのではないだろうか。

国立国語研究所の web 辞書『基本動詞ハンドブック』では、「もどす」

の意味として、７つの語義が記載されている。①人が、もの・人・動物を、ある場所から元々存在していた場所まで移動させる。②人が、もの・身体部位を、それまでの進行方向とは逆の方向に移動させる。③人が、変動や変化が生じた物事を、元々の状態にする。④人・動物が、飲食によって一度体内に取り込んだものを、口から外に出す。⑤人・組織が、別のある人に対して、一度中断していた物事を再開させる。⑥人が、乾燥した食べ物を水に浸したり、冷凍された食べ物を解凍したりすることで、加工する前と同等の柔らかさにする。⑦望ましくない水準にあった相場が、回復する。『基本動詞ハンドブック』が『明鏡国語辞典　第三版』、『日本語基本動詞用法辞典』と異なる点は、別義間の関係が示されていることである。しかし、別義③の「状態」の意味が広いのは、上記２冊の辞書と同様である、例えば、別義③は「人が、変動や変化が生じた物事を、元々の状態にする。」としているが、物事自体に変化が生じたことを扱っているのみで、本稿の別義11にあたる、おおよそ「置き換え」にあたる意味への言及がない。また、別義⑤は、「人・組織が、別のある人に対して、一度中断していた物事を再開させる。」としているが、それは、本辞書の例文に挙げられている「作業」や「業務」の場合にはあてはまるが、「部署」、「チーム」、「本社」がヲ格にきた場合、何を再開させるのかわかりにくい。学習者が正しい文を産出するためには、さらに詳細な記述が望ましい。

３．多義語分析に用いられる概念について

本稿では、多義語を分析する際に比喩を用いたが、本節では、その概念であるメタファー、シネクドキー、メトニミーについて述べる。

３．１　多義語分析に用いられる概念の定義

本稿では、「もどす」を多義語として分析する。分析する際には、レトリックの概念、すなわちメタファー、シネクドキー、メトニミーの中のメタファーを用いた。メタファー、シネクドキー、メトニミーについては、籾山（2021：99-100，105，117）の以下の定義に従う。

メタファー：２つの事物・概念の何らかの類似性に基づいて、一方の事物・概念を表す形式を用いて、他方の事物・概念を表すという比喩。

シネクドキー：より一般的な意味を持つ形式を用いて、より特殊な意味を表す、あるいは逆により特殊な意味を持つ形式を用いて、より一般的な意味を表すという比喩。

メトニミー：２つの事物の外界における隣接性、さらに広く２つの事物・概念の思考内、概念上の（類似性を除く）関連性に基づいて、一方の事物・概念を表す形式を用いて、他方の事物・概念を表すという比喩

３．２　メタファー、シネクドキー、メトニミーの例

籾山（2021：100-101，105，106-115）はメタファーについて『何らかの観点から複数の対象を比較し、共通点・類似点を見出すという認知能力がメタファーの基盤となっている』とし、「外見の類似性に基づくもの」と、「抽象的な類似性に基づくもの」に分類している。外見の類似性に基づくメタファーについては、「正月休みに食べすぎて、ブタになってしまった。」（例文５　下線は原文のまま）という例を挙げ、「ブタの太っている（と一般的に思われている）体型と５の文を発した人の体型の類似性に基づき、ブタという語を〈太った人間〉を表すのにも使っていることになる」と述べている。また、抽象的な類似性に基づくメタファーについては、「医者のタマゴ」という表現をとりあげ、「（鳥等の）タマゴ」と「医者（のタマゴ」）には、成長・発展の諸々の段階の〈最初の段階にある〉という類似性を見出すことができ、外見の類似性と比べて、より抽象的であると述べている。

シネクドキーについては、その基盤となる認知能力として、我々が持っている、ある対象を様々な程度の詳しさ･特定性で捉える能力が考えられ、詳しさ・精密さに関して複数の異なるレベルの捉えられ方をした場合であっても、言語表現としては同一のものを用いることだとしている。類から種への意味転用、種から類への意味転用の２つに分類し、類は、より外

延が大きいカテゴリーで、種は、より外延が小さいカテゴリーを表す。花に関して言えば、〈花一般〉が類、〈サクラ〉が種である。

類から種への意味転用については、「明日天気になるといいね」の天気は類から種への転用により、〈晴れ〉という意味を表していると述べている。種から類への意味転用については「ちょっとお茶飲みにいかない？」の「お茶」は、コーヒーやジュースも含むと考えられ、より狭い意味から広い意味に転用されて生じたものだとしている。

メトニミーについては、「参照点能力 / 参照点構造」を認知的基盤（の１つ）であるとし、空間における隣接、全体と部分の関係、時間上の隣接、原因と結果／手段と目的の関係、モノとコトの関係、作者と作品／生産者と製品の関係に分類している。

二つの出来事が時間的に連続して生じることに基づくメトニミーの例としては、「お手洗い」という語を挙げ、「お手洗い」が〈用便（するところ）〉という意味を表すと述べている。

４．分析

本節では、「もどす」の別義の考察を行う。コーパスで集めた用例を分析した結果、11の別義が認められた。その別義ごとに例文を示し、説明する。

別義１：（基本義（注３））〈人が〉〈移動させた物・人・動物・植物を〉〈移動させた場所から〉〈移動させる前の場所に〉〈移動させる〉

１．天知は、手にしていたワインのグラスをテーブルの上に戻すと、立ち上がって寝室に移った。
（https://chunagon.ninjal.ac.jp/bccwj-nt/search）（注４）

２．犯人がこう―英明にがつんと喰らわすなりして、奴をどっかに隠しておいてから、車だけ駐車場に戻しにきたのかもしれんしね。
（bccwj）

3．厩舎に馬を戻すと、二人は手をつないで屋敷の正面に向かった。（bccwj）
4．御手洗は「これはいかん」と思いながら壇から下りかけた。すると、そのとき、参加者の一人が駆け寄ってきた。フィラデルフィアにあるディプリ・ファックスという販売会社の社長、ジエリー・バンフィだ。バンフィは御手洗を壇上に戻し、「キヤノンのおかげで儲けさせてもらった、感謝の気持ちを込めて表彰状と記念品を渡したい」と演説した。（bccwj）

別義１は、一回、あるいは複数回、移動された物・人・動物・植物を、移動する前の場所に再び移動することである。例文１では、テーブルに置いてあったグラスを動作主が手に取り、そのあとで、再び元あったテーブルに置くという動作である。例文２では、犯人が駐車場にあった車を一度どこかへ移動させ、その後、元あった駐車場に移動させたというものである。移動する対象はさまざまで、例文３、４のように人や動物の場合もある。類義語に「かえす」があるが、「かえす」は「友人に本をかえす」のように「ニ格」には人を表す名詞が用いられる場合が多い、一方「もどす」は「ニ格」には場所を表す名詞が用いられる。本稿では意味拡張の起点はこの別義１と考える。なお、別義間の関係については、５節で図とともに述べる。

別義２：〈人・動物が〉〈移動させたそれ自身の一部を〉〈移動させた場所から〉〈移動させる前の場所に〉〈移動させる〉

5．両腕を左右にゆっくりと動かして水平に開き、またゆっくりと両腕を元の位置に戻します。（bccwj）
6．ぼくは足元の死体を直視できずに天井を仰いだ。「あれ」そして、そのまま首を戻すことができなくなってしまった。（bccwj）
7．腕の良い整体師に骨をきちんと元の場所に戻してもらうためにはボ

キッっていうのを怖がっちゃ駄目ですよ。(bccwj)

別義２は、人や動物が一度、あるいは複数回、移動させた身体の一部を移動前の場所に移動させることである。別義１は、人が対象をまるごと移動前の場所に移動することであったが、別義２は、対象は人や動物の身体で、また、身体全体ではなく、一部である。別義１も別義２も「移動前の場所に移動すること」という意味成分は共通している。

別義３：〈人･動物が〉〈飲食したものを〉〈体内から〉〈口を経由して〉〈体外に出す〉

８．食べればもどすということが多くなった。(bccwj)
９．母乳のみで育てているのですが、今日のお昼には大量のミルクを戻しました。(bccwj)
10. 法廷内に入り、右側の前の方に座るころには、ランチを戻しそうだった。(bccwj)

別義３は、人や動物が食べたり飲んだりしたものを、自分の意志ではなく、口から体外に出すということである。飲食したものは、口から食道を通って体内に移動し、消化器官の臓器に一度入るが、それを口から出すことに用いられる。まだ、口の中にある飲食物の場合には、「戻す」は用いられず、「吐く」や「吐き出す」が用いられる。つまり、飲食したものが、消化器官の臓器の中に一定時間とどまり、身体の一部とみなされて初めて「もどす」が使用可能になると言える。

別義４：〈人が〉〈所属先や役職・身分を変更された人を〉〈変更後の所属先や役職・身分から〉〈変更前の所属先や役職・身分に〉〈変える〉

11. 役職者が育児休業し復職した場合、その後の育児責任等を考えると

従来どおりの職責を果たすことは困難と予想されるので、復職に際しては役職をはずすこととし、一定期間様子を見て問題がなければ元の役職に戻すこととしたいのですが？（bccwj）

12. 占領が終わって、公選知事が政府の意向に従わないので再び官選知事に戻すというような声もあがったことがあった。（bccwj）
13. 山口記者は東京地裁に提訴したほか、小林編集局長に対して「約束通り元の経済部に戻すように」と求めたのだが、（後略）（bccwj）

別義４は一度あるいは複数回、所属先や役職・身分を変更された人を、変更後の所属先や役職・身分から、変更前の所属先や役職・身分に再び変えるということである。別義１は対象が場所を移動することであったが、別義４では、所属先や役職が変わるのである。

別義５：〈人が〉〈進行方向に進んでいる物・ことを〉〈進行方向とは逆の方向に〉〈進ませる〉

14. 後端が隣のクルマと同じ位置まで後退したら、ハンドルを左へ切る、窓から顔を出して後ろのクルマの左前端が見えたらハンドルを右へ戻す。（bccwj）
15. 車をジャッキアップして、バックギアに入れてエンジンをまわしっぱなしにして、よくメーターを戻したものです。（bccwj）
16. 倒した座席を元の位置に戻し、カナダ航空の超のつくほど簡素な朝食を食べると、そろそろ着陸の時間になった。（bccwj）
17. なんでこんなことしちゃったんだろう！時間を元に戻したい！（bccwj）
18. 車輪を上向けてひっくり返っている三輪車を元に戻した。（bccwj）

別義５は、一定の方向に進んでいる対象を、それとは逆の方向に進ませることである。例文14では、ハンドルを左に回し、その後、逆方向の右に

ハンドルを回すのである。また。例文17のように時間がヲ格にくる場合もある。

別義６：〈人が〉〈移動させた視線を〉〈移動させる前の対象に〉〈変える〉

19. （前略）彼女は、顔を斜め下に向けてなおも考えていたが、「ああ、ございました」と顔を起こし、視線を牧に戻した。(bccwj)
20. 妻がグラスを満たし、牛尾はふたたびブラウン管に目を戻した。(bccwj)
21. 勝沼はちらっと左右に一瞥をくれ、彼等の気持ちを汲み取るように大きくうなずくと慌てて視線をもとに戻した。(bccwj)

別義６は、人が見る対象を変える前の対象に変えることである。別義６の対象の移動は物体ではなく、視線の移動である。別義１は具体物の移動があるが、別義６は具体物の移動はなく、移動するのは目の動きのみである。具体物の物理的な移動はないが、視線の移動が伴い、その軌跡は別義１の軌跡と類似している。目は体の一部であるので、別義２とも関連するが、格成分と余剰成分が大きく異なるため、独立した別義としたい。

別義７：〈人が〉〈変化が生じた物･ことを〉〈変化が生じる前の状態に〉〈変える〉

22. ヤフーのインターネットの一番最初のページで、文字を一度クリックすると文字の色がブルーからレッドにかわりますが、元のブルーの色に戻すにはどのようにすればよいですか。(bccwj)
23. そして森を元の状態に戻そうと頑張っています。(bccwj)
24. そして、自国の税率上昇によって産業が外国に集積した場合，単に自国の税率を元の水準に戻したとしても当初の均衡を回復することはできないという履歴効果が存在する可能性を指摘している。

（bccwj）

25. 教員は子どもの声を重視して、授業を元のやり方に戻した。（bccwj）
26. 一度緩みかけた規律を元に戻すのはたいへん難しい。（bccwj）

別義７は、変化が生じた物・ことを、変化が生じる前の状態に変えることである。別義１では、具体物が移動するが、別義７では物の移動が起きるのではない。物やことの状態が変化するのである。

別義８：〈変化が生じた相場が〉〈変化が生じる前の相場に〉〈変わる〉

27. ドル円も本日安値を更新する展開となり、百三．二〇円台まで下げたが、現在は値を戻し百三円半ばまで反発している。（bccwj）
28. 八月、日経平均株価は一万円を回復しましたが、下がりすぎていたのが、少し戻しただけです。（bccwj）
29. ダイエーオーエムシーは、ダイエーグループの信販、金融戦略の中心的存在の会社です。８月二十三日の高値六百四十円から９月二十五日の安値三百十四円まで下げた後、十月３日高値四百九十九円まで戻してきたところでした。（bccwj）
30. 相場が戻せば、早めに評価損から脱出できることになる。（bccwj）
31. 市場では「相場が下落すれば下値で押し目買いがたんたんと入るが、相場が戻すと買いの手が引いて、相場にこう着感が出ている。（https://jp.reuters.com/article/tokyo-dbt-idJPL4N1MZ1EH）

別義８は、変化した相場が変化する前の相場になることである。他の別義と異なり、無意志性の表現となるので、動作主体は明示されない。また、例文30、31のように、対象が「相場」の場合、「NP ＋を」ではなく、「NP ＋が」となり、他の例文と格体制が異なる場合がある。（注５）これは、再帰中間態（注６）と考えられる。別義７は物やことの状態変化だが、別義８は状態の中でも相場の状態である。

別義９：〈人が〉〈乾燥させたり、冷凍されたりした食品を〉〈水分を加えたり、温度を変化させたりして〉〈食用や調理に適した状態に〉〈変える〉

32. 干しシイタケはたっぷりの水で戻し、スライスする。(bccwj)
33. 卵が冷たいとバターが分離するので室温に戻す。(bccwj)
34. 冷凍したイカを戻すときは塩水で戻す。
(https://webmagyouki.jp/2021/09/24/%E3%82%88%EF%BD%9E%E3%82%AD%E3%83%83%E3%83%81%E3%83%B3%EF%BC%81%EF%BC%834%E3%80%8C%E4%B8%AD%E8%8F%AF%E4%B8%BC%E3%82%92%E3%81%A4%E3%81%8F%E3%82%8D%E3%81%86%E3%80%8D/)

別義９は、食品を保存するために、水分を蒸発させたり、温度を変化させたりした食品に、水分を加えたり、温度を上げたりして、食用や調理に適した状態に変えることである。水分を再び加えたり、温度を上げるのには、一般的に水が多いが、湯や塩水なども用いられる。

別義10：〈人が〉〈変化が生じた身体を〉〈変化が生じる前の状態に〉〈変える〉

35. 元イベントコンパニオンという洋子さん。産後は体形を戻すことに頑張る！と意欲を燃やす、はりきり妊婦。(bccwj)
36. 涙がしわを洗い流し、年取ってて古い革の本のようにかさかさした皮膚を元にもどしてくれるかもしれない。(bccwj)
37.「おめえ、土岐造とはどういう間柄だい」敬之助は明らかにぎくりとした。息を吸い、顔色をもとに戻す。(bccwj)
38. 乱れた神経を正常に戻せば、食欲を呼び起こす大脳を安定させ、やせることができます。(bccwj)
39. 編集長の斜めになりかけたご機嫌を元に戻すためにも、今日は梅丘

先生の喜ぶような写真をいっぱい撮って行かなきゃ。(bccwj)

別義10は、人が、変化が生じた身体を、変化が生じる前の状態に変えることである。例文36では、年を取ってかさかさした皮膚を、以前のみずみずしい皮膚に変えることである。身体には身体部位の状態のみならず、例文35のように身体全体の状態や、例38、39のように人の心理状態や生理現象も含まれる。身体がかかわる点では、別義２に通じるものがあるが、別義２は身体部位の場所の移動が伴うのに対し、別義10は身体部位に場所の移動は伴わない。

別義11：〈人が〉〈変更した物･ことを〉〈変更する前の物･ことに〉〈変える〉

40. 機種交換をしましたが新しい携帯が使いずらく（原文のまま）以前使っていた携帯に戻したいと思っています。(https://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question_detail/q1343378313)
41. 久々に眼鏡を元に戻した。一個前のヤツに。それは良いんだが、一人も気づかないのはどーゆーことー！？みんなスルーですかそうですか。(https://aji.hateblo.jp/entry/20070803/p2)
42. 育ての親 USX は、二千一年に再びエネルギー部門をマラソン・オイルとして切り離し、本業の鉄鋼部門を百年前の US スチールに社名を戻す一方、浦項は二千二年三月にポハン･スチール･カンパニーの略称 POSCO に社名変更した。(bccwj)
43. よし、それでは酒に話を戻そう。(bccwj)
44. 頼子がうまく話を振ってくれたので、園井はらくに話題をもとに戻すことができた。(bccwj)
45. そこで、これからの論議、どういうふうにまとめていこうとされるのか。私は、その論議をまずもとへ戻していただきたいなという感じがしているわけです。(bccwj)

別義11は、人が一度、変更したものを変更前のものに置き換えることである。物やこと自体に変化は生じない。別義７では、色や森自体の様子が変化しているが、別義11では、対象物自体の変化はない。例文40では携帯電話を一度別の機種に変更したが、使い勝手が悪いため以前使っていたものに変えたということである。例文42では、社名を一度変更後、百年前の社名に変えたということである。おおよそ、「置き換える」と言い変えることができる。ヲ格名詞には、話の内容などのように抽象的な名詞が用いられることもある。

５．「もどす」の多義構造

本節では、まず、例文を分析することにより明らかになった11の別義を再掲する。次に、多義構造を図で示す。さらに、基本義から別義がいかに派生したかを説明する。

５．１　「もどす」の別義

別義１：（基本義（注３））〈人が〉〈移動させた物・人・動物・植物を〉〈移動させた場所から〉〈移動させる前の場所に〉〈移動させる〉

別義２：〈人・動物が〉〈移動させたそれ自身の一部を〉〈移動させた場所から〉〈移動させる前の場所に〉〈移動させる〉

別義３：〈人･動物が〉〈飲食したものを〉〈体内から〉〈口を経由して〉〈体外に出す〉

別義４：〈人が〉〈所属先や役職・身分を変更された人を〉〈変更後の所属先や役職・身分から〉〈変更前の所属先や役職・身分に〉〈変える〉

別義５：〈人が〉〈進行方向に進んでいる物・ことを〉〈進行方向とは逆の方向に〉〈進ませる〉

別義６：〈人が〉〈移動させた視線を〉〈移動させる前の対象に〉〈変える〉

別義７：〈人が〉〈変化が生じた物･ことを〉〈変化が生じる前の状態に〉〈変える〉

別義８：〈変化が生じた相場が〉〈変化が生じる前の相場に〉〈変わる〉

別義９：〈人が〉〈乾燥させたり、冷凍されたりした食品を〉〈水分を加えたり、温度を変化させたりして〉〈食用や調理に適した状態に〉〈変える〉

別義10：〈人が〉〈変化が生じた身体を〉〈変化が生じる前の状態に〉〈変える〉

別義11：〈人が〉〈変更した物･ことを〉〈変更する前の物･ことに〉〈変える〉

５．２　「もどす」の多義構造図と別義間の関係

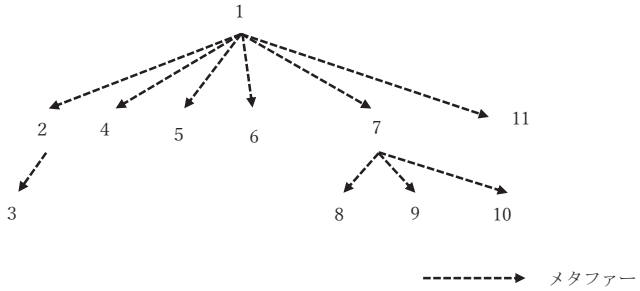

図１

本稿では、「もどす」を分析し、11の別義を認めた。その派生に関わるのは、メタファーという比喩である。

本稿では、基本義である別義１「(基本義（注３))〈人が〉〈移動させた物・人・動物・植物を〉〈移動させた場所から〉〈移動させる前の場所に〉〈移動させる〉」が拡張の起点であると考える。その起点から、メタファーにより別義２「〈人・動物が〉〈移動させたそれ自身の一部を〉〈移動させた場所から〉〈移動させる前の場所に〉〈移動させる〉」が派生している。別義１は物体が、別義２では人の体の一部が移動しており、実際に物体の移動を伴う。また、元あった位置への移動という点では別義２は別義１と共通している。別義３「〈人・動物が〉〈飲食したものを〉〈体内から〉〈口を経由して〉〈体外に出す〉」は別義２からの拡張で、メタファーによるも

のと考える。人や動物が飲食したものが一度、胃などの消化器官の臓器に深く取り込まれたということは、食べ物などが体の一部になったと考えられ、別義２の体の一部が移動前の位置に移動することと類似しているからである。別義４「〈人が〉〈所属先や役職・身分を変更された人を〉〈変更後の所属先や役職･身分から〉〈変更前の所属先や役職･身分に〉〈変える〉」は別義１からメタファーによって拡張したと考える。移動する対象は物ではなく、人であり、移動先は場所でなく、役職や身分であるが、広い意味での元あった位置（部署等）への移動という類似性が認められるからである。別義５「〈人が〉〈進行方向に進んでいる物・ことを〉〈進行方向とは逆の方向に〉〈進ませる〉」は逆方向への進行が伴う。別義５も別義１からメタファーによって派生したと考えられる。別義１の物の方向は元あった位置への移動で、逆方向とも考えられ、類似性が認められるからである。別義６「〈人が〉〈移動させた視線を〉〈移動させる前の対象に〉〈変える〉」については別義１からのメタファーによる拡張だと考えられる。別義６では、移動するのは物体ではなく、視線である。視線の軌跡が別義１の物体の移動と類似していることによる派生である。別義７「〈人が〉〈変化が生じた物・ことを〉〈変化が生じる前の状態に〉〈変える〉」も別義１からメタファーにより拡張したと考えられる。別義１では物の位置が変化するが、別義７で変化するのは物やことの状態である。以前あった位置への変化と以前への状態変化には抽象的な類似性が認められるからである。別義８「〈変化が生じた相場が〉〈変化が生じる前の相場に〉〈変わる〉」は、別義７からメタファーによって派生したと考える。相場の変動も状態の変化という点で共通しているからである。別義９「〈人が〉〈乾燥させたり、冷凍されたりした食品を〉〈水分を加えたり、温度を変化させたりして〉〈食用や調理に適した状態に〉〈変える〉」も別義７からメタファーによって派生したと考える。乾燥した食品や冷凍した食品を水などで柔らかくしたり、温度を上げたりすることは状態の変化という点で別義７と共通しているからである。別義10「〈人が〉〈変化が生じた身体を〉〈変化が生じる前の状態に〉〈変える〉」は別義７からメタファーによって派生したと考え

る。別義７は物やことの状態変化だが、別義10は身体の変化である。しかし、もとの状態への変化という点で類似性が認められるからである。別義11「〈人が〉〈変更した物・ことを〉〈変更する前の物・ことに〉〈変える〉」は別義１から拡張しており、それはメタファーによると考えられる。一度置き換えられた物を変更する際には元の位置の変化が伴うからである。

６．格成分と余剰成分

本節では、「もどす」を含む文を学習者が産出する場合に必要な格成分（注７）と余剰成分（注８）をコーパスで採集した用例から抽出して示す。

別義１：（基本義（注３））〈人が〉〈移動させた物・人・動物・植物を〉〈移動させた場所から〉〈移動させる前の場所に〉〈移動させる〉
〈対象〉を：グラス、湯飲み、煙草、受話器、御飯、牛肉、車、山羊、馬、卵母細胞
〈位置・場所〉に：テーブル、群れ、厩舎、子宮、茶托、懐、壁の本体、駐車場、炊飯器、鍋、フライパン

別義２：〈人･動物が〉〈移動させたそれ自身の一部を〉〈移動させた場所から〉〈移動させる前の場所に〉〈移動させる〉
〈対象〉を：頭、首、顔、肩、足、手、膝、骨、骨盤
〈位置・場所〉に：元、元の位置、元の場所、枕、正面

別義３：〈人･動物が〉〈飲食したものを〉〈体内から〉〈口を経由して〉〈体外に出す〉
〈対象〉を：ミルク、ランチ、白酒、胃の中のもの

別義４：〈人が〉〈所属先や役職・身分を変更された人を〉〈変更後の所属先や役職・身分から〉〈変更前の所属先や役職・身分に〉〈変える〉
〈対象〉を：役職者、記者、（人名）、彼

〈位置・場所〉に：元の役職、在家信徒、野球部、元の経済部、幼年学校、将軍

別義５：〈人が〉〈進行方向に進んでいる物・ことを〉〈進行方向とは逆の方向に〉〈進ませる〉

〈対象〉を：アクセル、ハンドル、座席、クラブ、スロットル、メーター、ひっくりかえったままの筏、上向けてひっくり返っている三輪車、機体体勢、艦、転覆した遊漁船、時間、時

〈位置・場所〉に：元の位置、元、水平、中心、針路、地名発生の原点

〈様態〉：少し、よく

別義６：〈人が〉〈移動させた視線を〉〈移動させる前の対象に〉〈変える〉

〈対象〉を：目、視線

〈位置・場所（起点）〉から：窓ガラス、窓

〈位置・場所（帰着点）〉に：男、ティーカップ、ブラウン管、僕、天井、（人名）、画像、棺、元、はなみずき、本、飛行機、係長、テレビ、新聞、山、テーブルの上、空、プール

〈位置・場所（帰着点）〉へと：（人名）

〈位置・場所（帰着点）〉の方へ：（人名）

〈様態〉：あわてて、ふたたび、ふいに、ゆっくり、もう一度、ぶつぶついいながら、一旦、すぐに

別義７：〈人が〉〈変化が生じた物･ことを〉〈変化が生じる前の状態に〉〈変える〉

〈対象〉を：関係、環境、現状、状態、習慣、設定、実績、実績、食事、食生活、レイアウト、ペース、税率、水質、質、設定、日支間の状態、割合、倍率、回転、定員、山、授業、政治、権力、権威、権限、水田、経営、規律

〈変化後の状態〉に：元、ゼロ、正常、日本、旧、数日前の状態、戦争前まで、朝廷、本来の姿、ノーマルポジション、元のやり方、昔の確固たるもの、州の公共企業委員会、神君家康公のむかし

〈様態〉：当面、再び、人工的に

別義８：〈変化が生じた相場が〉〈変化が生じる前の相場に〉〈変わる〉

〈対象〉を：値、株価、相場

〈対象〉が：相場

〈変化後の状態〉にまで：高値四百九十九円

別義９：〈人が〉〈乾燥させたり、冷凍されたりした食品を〉〈水分を加えたり、温度を変化させたりして〉〈食用や調理に適した状態に〉〈変える〉

〈対象〉を：わかめ、干しエビ、昆布、豆、貝柱、春雨、冷凍したイカ、エビ

〈変化後の状態〉に：常温、室温

〈道具〉で：水、湯、たっぷりの水、ぬるま湯、塩水

〈方法〉：湯につけて、熱湯に２～３分つけて

〈様態〉：柔らかく、ふっくら、かためにに

別義10：〈人が〉〈変化が生じた身体を〉〈変化が生じる前の状態に〉〈変える〉

〈対象〉を：不整脈異常、乱れた神経、頭のおかしくなった人、体重、体力、体形、体温、基礎体温、体調、代謝、注意、意識、気持ち、関心、視点、機嫌、試合勘、肌、皮膚、コンディション、魂、視力、顔色

〈変化後の状態〉に：元、元の状態、正気、正常、数日前の状態、万全、石川巡査の方、父との対話、死体、輪

別義11：〈人が〉〈変更した物･ことを〉〈変更する前の物･ことに〉〈変える〉
〈対象〉を：眼鏡、アイコン、名前、名字、ＵＳＸ（社名）、話、話題
〈変更後の物・こと〉に／へ：元、初期アイコン、旧姓、POSCO（社名）元、酒、9.11のテロ、現行憲法、ワリカン、日本の放送業、千八百九十三年九月、アフガン問題、事件の発端
〈様態〉：もう一度、少しだけ、一度、ちょっと、急に、再び、唐突に

7．おわりに

本稿は、コーパスで採集した用例をもとに、「もどす」を分析した上で、複数の意味を記述し、その複数の意味の多義構造を明らかにした。

籾山（2021）では、多義語分析には４つの課題があるとしており、本稿ではそのうちの２つの課題、「何らかの程度の自立性を有する複数の意味の認定（多義的別義）の認定」、「複数の意味の相互関係の明示」に取り組んだ。

まず、「何らかの程度の自立性を有する複数の意味の認定（多義的別義）の認定」については、11の多義的別義を認定することができた。次に「複数の意味の相互関係の明示」では、別義間の関係を明らかにすることができた。意味の派生を動機づけているのはメタファーという比喩である。

以上の分析結果に基づき、学習者の「もどす」を用いた文の産出に貢献すべく、格成分と余剰成分を示した。

注

1　多義語については、籾山（2021：３）の次の定義に従う。
　１）共時的に複数の意味を有する。
　２）複数の意味に関連性が認められる。

2　籾山（2021：14，15）では多義語分析の４つの課題として、１）「何らかの程度の自立性を有する複数の意味（多義的別義）の認定、２）プロトタイプ的意味の認定、３）複数の意味の相互関係の明示、４）複数の意味全てを統括する

モデル枠組みの解明、を挙げている。本稿では、１）と３）を中心に行う。

3　本稿で用いる基本義はプロトタイプ的意味のことである。籾山（2021：15）では、「複数の意味の中で、（ある言語の母語話者（の大半）にとって）最も基本的な意味（であると直感的に感じられる意味）をプロトタイプ的意味と考える」と述べ、金槌という語を例に挙げ、「〈釘等を打ち付けるための大工道具〉と〈泳げない人〉という２つの意味のうち言うまでもなく、前者の意味の方がプロトタイプ的意味である」と述べている。

4　本稿の例文は、数例を除き、「国立国語研究所　現代日本語書き言葉均衡コーパス 中納言版」（https://chunagon.ninjal.ac.jp/bccwj-nt/search）で収集した。以下、bccwj と略す。上記コーパスに依らない数例に関しては例文の下に出典を示した。

5　籾山（2021：53-63）では、多義語動詞の格体制について３つの場合があるとして次の３つを挙げている。①格体制が異なることと多義的別義が異なることが対応する場合、②格体制は同じであるが、多義的別義としては異なる場合、③格体制は異なるが、多義的別義としては同じである場合
別義８は③にあたると考えられる。

6　国広（1996：420）は再帰中間態を、以下のように述べ、「あげる」等、14の動詞の再帰中間態の例を挙げている。「相場がもどす」の「もどす」もこの再帰中間態であると考えられる。

「波が寄せる」は、意味底層として「波がみずからを寄せる」を持っており、その中の「みずからを」を表面に出さないままの表現であると考えることにより、形と意味の両方を説明できるというのである。「このみずからを」の部分はおそらく過去から現在に至るまで 一度も言語表現を与えられたことがないにもかかわらず、意味底層に想定するわけである。いまは詳説するいとまがないが、この意味底層は言語表現の意味を考察する場合にぜひ必要な概念である。このようにして生じた「寄せる」の用法を「再帰中間態」と呼ぶことにする。「みずからを」が含まれているので「再帰」であり、形が他動詞で用法が自動詞なので「中間態」と呼ぶわけである。

7　森山卓郎（2000：58）では、格成分について以下のように述べている。

動詞には、その事態が成立するために情報として最低限必要な名詞がある。これを「格成分（必須補語とも必須成分とも言う）という（もっとも、日常会話では、わかっている場合は省略されることがある）。

8　森山卓郎（2000：58）では、余剰成分について、「また、格成分に対して、それがなくても最低限の事態が成立するという成分を「余剰成分」と呼ぶ。」とし、さらに、「余剰成分には、原因や理由、道具（デ格で表されることが多い）や、時と場所に関する成分（時空成分）のほか、共同動作主（～トイッショニという形になれる～ト）などがある。 一般にこれらの余剰成分は、動詞の意味の違いに関わらず共起できる。」と述べている。

引用文献

北原保雄編（2021）『明鏡国語辞典　第三版』、大修館書店

国広哲弥（1996）「日本語の再帰中間態」『言語学林1995-1996』、三省堂

小泉保、船城道雄、本田晶次、仁田義雄、塚本秀樹（2004）『日本語基本動詞用法辞典 初版』，大修館書店

籾山洋介（2021）『［例解］日本語の多義語研究 認知言語学の視点から』、p３、pp14-15、pp53-63、pp99-101、pp105-115、p117、大修館書店

森山卓郎（2000）『ここから始まる日本語文法』p58、ひつじ書房

Web 辞書

国立国語研究所『基本動詞ハンドブック』（https://verbhandbook.ninjal.ac.jp/）

「戻す（もどす）」https://verbhandbook.ninjal.ac.jp/headwords/modosu/

用例出典

本稿の用例は以下のコーパスで収集した。

・国立国語研究所　現代日本語書き言葉均衡コーパス 中納言版（https://chunagon.ninjal.ac.jp/bccwj-nt/search）

上記以外で収集したものについては個々に URL を示した。